

## 2-6 景観整備計画

### (1) 基本方針

景観整備にあたっては、浜松城跡が本来持っている価値を顕在化させるよう、また、うるおいのある緑の拠点としての利用面との調整を図りながら、優先順位の高い順に段階的に整備を実施する。

### (2) 整備計画

#### ① 既存植生整備計画

##### i 史跡としての魅力向上させるための樹木伐採

下記の優先順位の高い順に段階的に整備を実施する。

ア 樹根が遺構に悪影響を及ぼしていると思われる既存植生は、順次伐採する。

イ 公園内外の主要な眺望点や幹線道路から、見所となる復原建物や石垣への見通しを確保するため、眺望を阻害している既存植生は、伐採や移植を実施する。

特に、公園内の公園利用者駐車場、展望広場、公園外の都心方面や東側の幹線道路からの眺望に留意する。高木だけでなく低木についても同様とする。

主要な視点場の位置 (p91, 92 景観整備計画図) と視点場からの眺望イメージ (p93~96) を示す。

ウ 石垣を覆う枝葉から落ちる雨水が、石垣に悪影響を及ぼしていると思われる樹木については、剪定などの適切な樹木管理を検討する。

急斜面における樹木を伐採、除根する場合には、傾斜面の崩壊を助長する可能性があることを十分視野に入れ段階的に間引きつつ、地被植物の植栽により、斜面の安定化を並行して行うなど、伐採、除根の影響を確認しながら進める必要がある。

移植や代替の緑の植栽は、公園内又は関連する公園緑地で実施することを検討する。

##### ii 樹木更新、樹勢回復

i と並行して、質の高い緑の育成を図るため、老木や密植などにより樹勢が衰えている既存植生は、樹木更新や樹勢回復を行うなどの対策を講じて、日照を確保し、安全性や快適性を高める。

##### iii 景観木の保全

本丸西部や西端城曲輪に植えられているサクラは、本公園内の主な花見の場所として多くの市民に利用されている。サクラと城の景観が浜松城の魅力の一つであるとも言えるため、石垣の保存や石垣の眺めを阻害しないサクラについては、極力保全する。しかし、植栽後かなりの年数が経過しているものが多く、樹勢が衰えている木も見られることから、適宜更新する。

また、本丸のイチョウは戦後に公園整備される前の寺院の境内に植えられていた木で、当地のシンボル的な樹木であったことから、保全する。

#### iv 南エントランスの既存植生整備

南エントランスゾーンには、市道沿いに既存樹木（ケヤキ）がある。都心方面から城跡の眺望や城跡へのアプローチを阻害している場合は、伐採や移植を検討するが、歩行者に豊かな緑陰を呈しているため、伐採は必要最小限とする。

#### ② 植栽計画

##### i 歴史ゾーン

廃城時の姿をできるだけ再現するため、歴史ゾーン内での新たな植栽は、原則として実施しない。往時に植えられていたと考えられるマツの植栽については、既存植生整備が進んだ段階で検討する。

##### ii 南エントランスゾーン

浜松城公園全体の歩行者向け入口として潤いのある快適な空間を創出するため、適度な緑陰を提供する修景植栽を行う。また、歴史的な雰囲気を高めるために、公園外の周辺環境を遮蔽するように緑を配置する。



樹木伐採の事例（吉田城鉄櫓周辺）



樹木伐採、剪定の事例（犬山城天守閣周辺）

■既存植生整備による景観形成の目指す姿



現在の天守曲輪周辺の様子（本庁屋上から平成 22 年 6 月撮影）

樹木が繁茂し、石垣が見えない。



既存植生整備による天守曲輪周辺の目指す姿（昭和 40 年代 秋～冬期撮影）

石垣の様子が良くわかる。

次頁に景観整備計画図を示す。

## 景観整備計画図

### 凡例

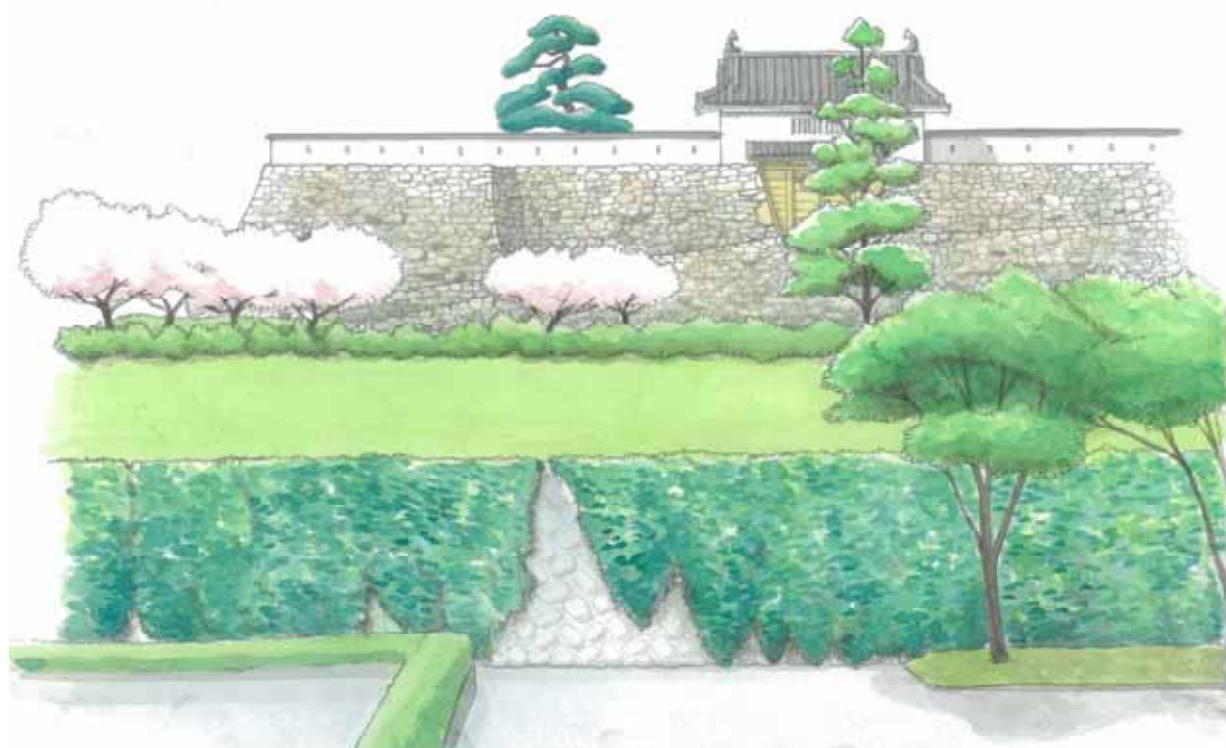
- ● ★ 石垣上に生育する樹木や近接している樹木⇒樹根が石垣に影響を及ぼしていると思われるため伐採する樹木(スタジイなど)
- ● 見通しを確保するため伐採する区域
- ● 間伐する区域
- ● 保全する景観木(サクラ、イチョウなど)
- 赤字** 視点場①～④
- 史跡指定範囲
- 計画対象範囲



■視点場① 東側から天守門と石垣を望む景観



樹木伐採前

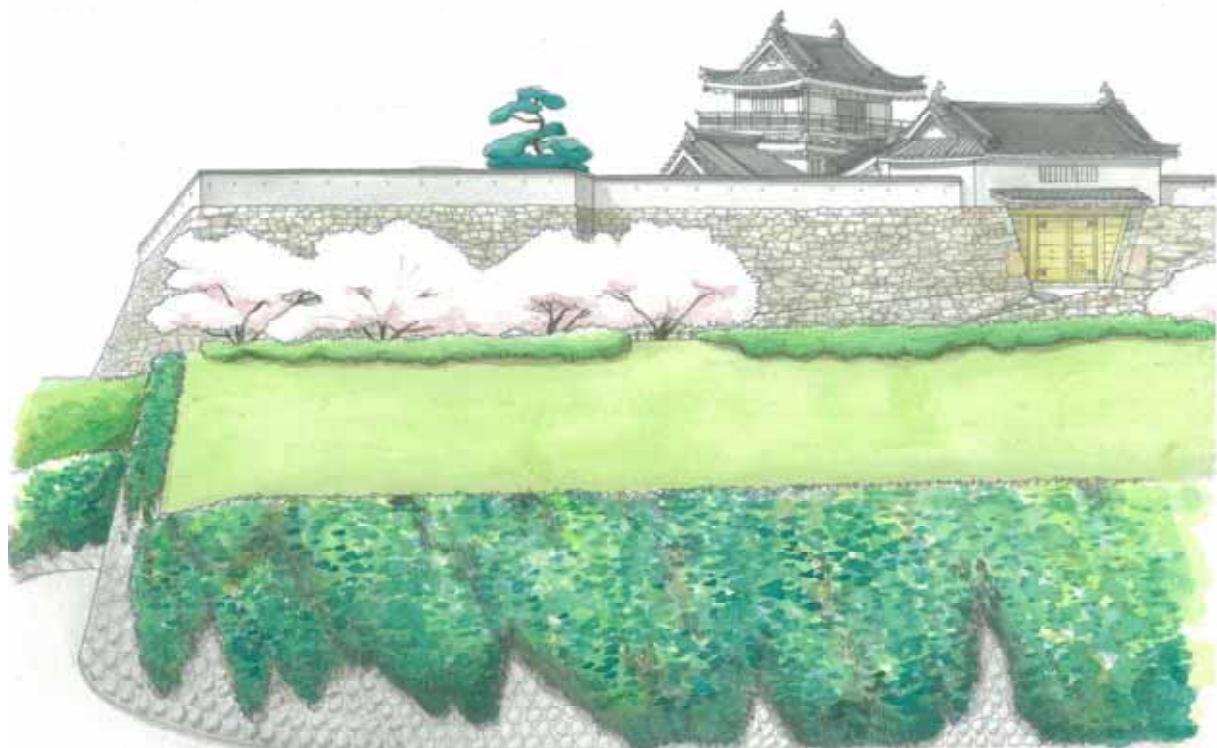


樹木伐採後のイメージ

■視点場② 南東側から天守門と石垣を望む景観



樹木伐採前



樹木伐採後のイメージ

■視点場③ 南側から天守曲輪石垣を望む景観



樹木伐採前

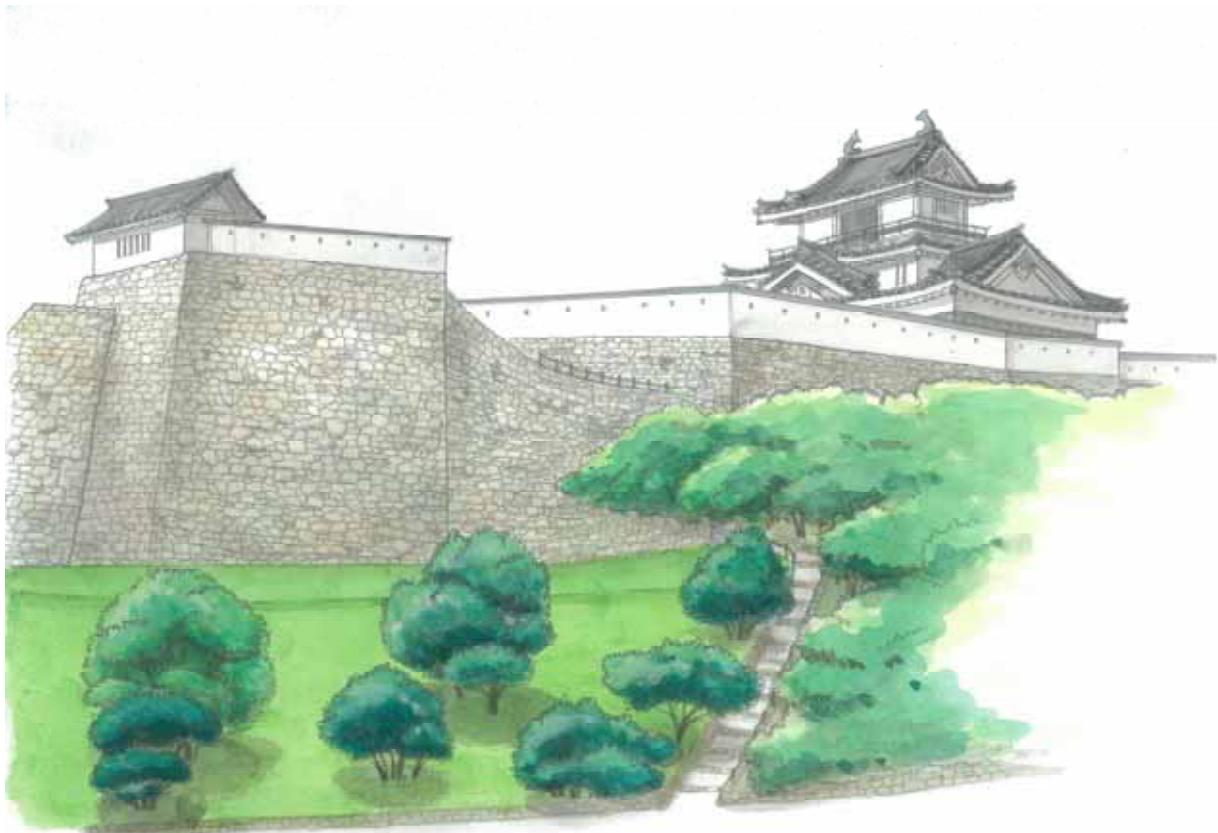


樹木伐採後のイメージ

■視点場④ 中央芝生広場から富士見櫓付近を望む景観



樹木伐採前



樹木伐採後のイメージ